

大阪市における社交倶楽部の変遷に関する研究

A Study on Transition of the Social Club in Osaka

都市計画分野
Urban planning

加畑文裕
Fumihiko Kabata

本研究は大阪市における社交空間及び社交倶楽部に着目し、近代より栄えた時代背景と共に社交空間の変遷を捉えることで、現代における社交空間及び社交倶楽部の意義を考察するものである。設立年代の異なる社交倶楽部を（①会館と立地、②室構成、③事業計画、④会員構成）に関してそれぞれの点で分類し、現存する社交倶楽部の活動の変遷より今後の都市における社交空間の在り方を示す。

This study is focus on the sociable space and the social club in Osaka city and considers a problem while I think about the historical backdrop that flourished from modern society to seize the change of the sociable space and the social club with the urban development. I classify social club varying in the establishment generation under four topics, ① overview of the building and location ② room component ③ business plan ④ member configuration, and show the existence of the sociable space in the city future than the change of the activity of an existing social club.

1. はじめに

1-1. 研究の背景と問題意識

個人生活より集団社会へ、個人経済より社会経済へと変わりゆく人類生活様式の一現象として社交倶楽部は誕生した¹⁾。都市の人口集中などの現象の根底には「集団生活の強化」があり、社交倶楽部結成においても同様である¹⁾。しかし、日本は近代に入ると職住分離の考えが人々に浸透し、休日における人々の社交性が希薄化していく、これに対して葛野壮一郎は『建築と社会』（昭和5年3月）で社交倶楽部を取り上げ、「集団生活の強化」の必要性について言及した。このように社交倶楽部の発展過程を見る事は社会史の一面が綴られると言える¹⁾。社交倶楽部は社会の指導層・上流階級など限定されたメンバーだけで構成された極めて閉鎖的な社交組織であり、あくまでも、支配社階級や知識人のための、社交空間という機能であり、特権階級の人々のサロンである²⁾。しかし、バブル経済崩壊後の長期的な不況や消費の低迷など、産業構造の変化は東京一極集中を引き起こし、社交倶楽部の会員である指導層・上流階級のメンバーが東京にとどまることによる影響から大阪市において、会員数減少と会員の高齢化から閉鎖に追い込まれる社交倶楽部が多くなる。

一方で現代ではアカデミーヒルズ、ナレッジキャピタル、OBP アカデミアなど様々な分野の人々が親

睦を図る産業構造の変化に対応した新しい社交空間が生まれ、「集団生活の強化」は絶えることがない。

大阪市においては近代、近現代に多くの社交倶楽部が誕生し、民都大阪と言われるように民間を基盤とした大阪経済の発展過程において社交倶楽部は重要な位置づけで、社交倶楽部の数、分類において多様であった。現代ではそれら社交倶楽部も日本紳業倶楽部のように、入会条件を変更し、同業者の枠を越えた社交空間を求める動きが見られる。また、定期的に見学会を開催し、会館を一般に開放し、会員専用の会館という倶楽部形態の変化も見られ、社交空間を模索している。しかし、社交倶楽部は絶えず人々に社交空間を提供し、都市と共に存在し続ける。

1-2. 研究の目的

現代における社交空間の在り方を示すためには、社交倶楽部の発展過程にさかのぼり、時代背景と共に変遷を捉えることは重要である。



図1 都市における倶楽部の位置づけ

1-3. 研究の位置づけ

萱沼³⁾らは近代東京の社交倶楽部に着目し、その成立過程と実態を明らかにし、日本の都市近代化の過程における史的な位置づけを行うことを目的とした。

本研究では大阪市の社交倶楽部に着目し、社交空間の変遷を時代背景と共に活動の変化を捉え、室の構成や事業計画などから大阪市における社交倶楽部及び社交空間の変遷を明らかにする。

表1 社交倶楽部研究の位置づけ

	社交倶楽部研究				
	社交空間	建築	建築意匠	都市	都市
概観				建築施設の特徴	街のシンボル性
萱沼ら	社交・娯楽のための取組に類するものない建築を設計の中心とする。			娯楽施設として社交倶楽部を取り上げた研究	
川島	建築物として評価した。	建築家の作品として評価した。			
桑原ら、松岡ら	各事例を比較した。			文化施設として重要な会館であると評価した。	市民の集会所としても機能するを評価した。
岡田ら、保井ら		外観デザインの周辺建築物への継承を評価した。		歴史的建築物として評価した。	都市再開発事業の中で位置づけを行った。
本研究	会館・立地、室構成、事業計画、会員構成を時代背景と共に整理し、社交空間の変遷を明らかにする。				会館・立地、室構成、事業計画、会員構成を時代背景と共に整理し、社交空間の変遷を明らかにする。

2. 大阪市における社交倶楽部の概要

2-1. 事例の抽出

大阪府卸商業名鑑(昭和41年度版)に「倶楽部」66事例が記載されている。奉仕倶楽部は本研究の趣旨と外れ、除いた22事例を対象に絞る。(表2)

倶楽部		運動倶楽部	奉仕倶楽部			
<table border="1"> <tr> <td>一般社交倶楽部</td> <td>同業倶楽部</td> <td>同窓倶楽部</td> </tr> </table>	一般社交倶楽部	同業倶楽部	同窓倶楽部	業界・日本経済の発展を目的に同業者及び異業種の会員との親睦を図る組織。 設立年代が近代のもの ex) 大阪倶楽部 日本倶楽部 ex) クラブ関西 テキスタイル倶楽部	運動を通して会員同士が親睦を深める組織。 ex) カントリークラブ フィットネスクラブ	親善・世界平和を目的にボランティア活動を通して、地域社会に奉仕活動を行う組織。 ex) ロータリークラブ ライオンズクラブ
一般社交倶楽部	同業倶楽部	同窓倶楽部				

図2 倶楽部の枠組み

表2 大阪市における社交倶楽部の概要

No.	名称	所在地	No.	名称	所在地
1	今橋クラブ	中央区今橋1-15 (日経ビル)	12	クラブ関西	(旧館) 北区堂島1-3丁目(新館) 北区堂島1丁目3-11
2	大阪倶楽部	大阪府中央区今橋4-4-11	13	社文倶楽部	北区梅田2 (第一生命ビル)
3	大阪工業倶楽部	都島区東野田9 (大阪大学工学部)	14	華僑倶楽部	都島区東野田1-8 (華僑工会議所内)
4	大阪商工クラブ	北区南本町5-10 (商工会館)	15	城南会館	中央区由田町70
5	大阪商業クラブ	中央区伏見町2-4-6	16	清交社	(旧館) 北区船場町 (豊島ビルディング9階) (新館) 大阪市北区堂島1-3-1ANAクラウンプラザホテル大阪2階
6	大阪造船倶楽部	北区堂島中町1-23 (堂島中町ビル)	17	(社) 中央倶楽部	福島区下福島3 (中央卸売市場)
7	関西染物クラブ	中央区北久太郎町1-20	18	中央電気倶楽部	北区堂島2-9
8	関西フェルトクラブ	北区高田町2 (関西フェルトファブリック)	19	(旧館?) 中央区南本町2-37 (新館) 中央区船場町3-4	9輪田織物会館 8F
9	関西経済倶楽部	北区船場町30 (豊ビル)	20	(社) 日本産物倶楽部	中央区南久太郎町2-1
10	関西青経クラブ	西区土佐通1-1 (大同生命ビル)	21	(社) 日本産物倶楽部	中央区船場町2-5-8
11	技術経営人倶楽部	北区北園町 (市立工業研究所)	22	有恒倶楽部	中央区船場町2-21 (野村ビルディングの一部)

3. 大阪市における社交倶楽部の類型化

3-1. 設立年

表3 設立年と倶楽部の分類

時代区分	近代	近現代
分類(設立年など)	近代的社交倶楽部	近現代的社交倶楽部
設立年	1900年~1945年(終戦)	1945年(終戦)~1989年(昭和末期)

社交倶楽部の設立年を近代・近現代に区分し、設立年、会館の意匠より時代区分に「的」と付け倶楽部を分類する。また、本研究で現代は主に現在を指すため終戦以降昭和末までを近現代と定義する。

3-2. 設立の経緯

倶楽部設立趣意書より各倶楽部の設立当時の目的を読み取り、設立年ごとの特徴を把握するため、設立年分類(近代的社交倶楽部、近現代的社交倶楽部)より代表事例を次に示す。

(1) 近代的社交倶楽部

(大阪倶楽部)

「欧州には17世紀時代より、倶楽部あり爾來年と共に発達して政治家より成るもの、軍人より成るもの、実業家より成るもの、文学者より成るもの、医師より成るもの、技術者より成るもの、其類別百を以て数えるに足る。そして今や倶楽部は社交界唯一の重要な機関となり之れに依りて自他の利益するところ頗る多きものあり、近來我帝都にも数多の倶楽部あり、社交の発達に資する所実に鮮少ならず。然るに我が大阪市は120万の人口を抱擁し、帝都商業の中心地を以て称せらるるに關わらず、銀行業者よりなる銀行倶楽部を除きては倶楽部と稱し得るに足るものなく、而かも大阪銀行倶楽部は銀行業者以外の人士を容るるには規模余りに小に失す故に、大阪市にありて社交と稱するものは旧套を脱せざると共に其範囲も亦頗る狭小なり。是れ久しく世人の遺憾とせざる所にして夙に大規模の社交倶楽部設立の議を唱へられたる所以なり。」

今や大阪は朝鮮の併合、満州の発達、清国の開発、太平洋の隆運と共に其商工業は非常の速度を以て進み、將に東洋に於ける商業の中心地たらんとす、此大なる運命を控へる大阪は人口の激増と共に人事益錯雑となりて、郵便、電信、電話のみに依りて百事を処理し難きものあり、仍て各方面の人士を網羅せる大阪倶楽部を組織し、好適の位置を択みて部員の集会所に宛てなば、百般の処弁に資益するところ莫大なるものと共に、社交上益する所頗る多きものあるべしと信ず、之れ今回大阪倶楽部を設立せんとする所以なり、同感の士賛同を吝しむなくんば真に幸なり。」(出典:「大阪倶楽部50年史」pp33)

(2) 近現代的社交倶楽部

(今橋クラブ)

「第二次世界大戦も日本の無条件降伏によって終止符が打たれ、帝国日本は崩壊し新しい民主日本が生まれ出るに当たって各界の改組や新様式が当然必要とされ、新時代の要求に応える活発な動きが示された昭和20年から昭和26年にかけて関西財界を中心とする社交界もようやく曙光を認めるに至り、時代に即応する倶楽部活動が待望されてきたが有数な歴史を持つ倶楽部はその施設を接收され仮住まいのやむなき状態で十分にその目的を達する事ができない恨みがあつた。この秋日本経済新聞社が西日本読者への報道サービス陣の画期的強化を目指し大阪印

刷のため宏壮なる支社ビルを建設されその4階以上を関西財界人に「手土産」として無条件提供を申し出られたので昭和26年2月15日有志相集まり協議した結果関西財界の中枢の主要団体の実質的担当者として第一線に活躍する人々の社交倶楽部として、日経の好意を受けここに社団法人を創立することになった。」

〈出典：「今橋クラブ会員名簿昭和31年」〉

3-3. 立地

近代より大阪駅は大阪の玄関口である。地方会員を含む社交倶楽部にとって、好立地である。また、船場においては古くから商業の中心として機能しており、その商業関係者同士が集まりやすい場所として好立地である。大阪市において社交倶楽部は大阪駅周辺から船場に集中する。



図3 大阪市における社交倶楽部の位置(昭和41年)

3-4. 構成要素

3-4-1. 社交倶楽部分類

(1) 一般社交倶楽部

会員の休養、娯楽、趣味、運動等で相互に利便を得るための倶楽部。

(2) 同業倶楽部

個人または会社が会員で同業者が結成する倶楽部。

(3) 同窓倶楽部

母校を同じにするものの倶楽部。

表4 社交倶楽部の分類

時代区分	近代			近現代	
設立年分類	近代的社交倶楽部			近現代的社交倶楽部	
倶楽部分類	一般社交倶楽部	同業倶楽部	同窓倶楽部	一般社交倶楽部	同業倶楽部
事例	大阪倶楽部	中央電気倶楽部	有恒倶楽部	クラブ関西	テキスタイル倶楽部
	清交社	日本綿業倶楽部	大阪工業倶楽部	今橋クラブ	大阪薬業クラブ
	関西経済倶楽部			堺倶楽部	中央倶楽部
					日本塗料倶楽部

3-4-2. 室構成

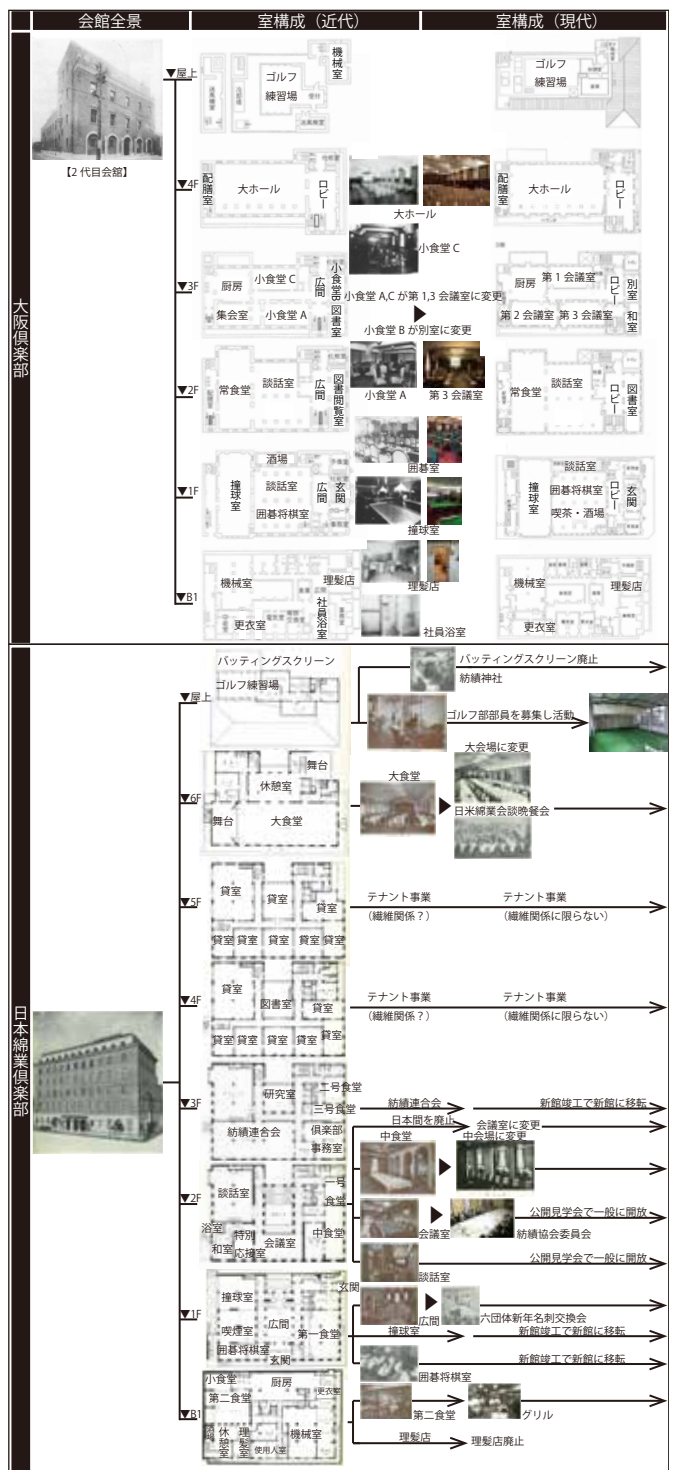


図4 室構成の変遷 (参照：「大阪倶楽部50年史」「日本綿業倶楽部五十年誌」)

設立時は各倶楽部食堂や談話室など会員の親睦に重きを置いた室構成であったが、次第に食堂は貸会議室に変更され、会館の一般開放も進んでいる。

3-5. 倶楽部の解散

(有恒倶楽部)

現大阪市立大学の同窓倶楽部として大正15年創設。大阪経済に寄与し、大阪の名門倶楽部として船場で活動していた。バブル崩壊に伴い、高齢化社会と経済不況に直面して、会員数が減少し、平成15年5月末をもって社団法人有恒倶楽部は解散した。

4. 各社交倶楽部の特徴と傾向

4-1. 研究の対象

現存する社交倶楽部の内、近代的社交倶楽部より3事例、近現代的社交倶楽部より2事例（表5）に着目する。各事例の会館と立地、室構成、事業計画、会員構成より活動の変遷を明らかにする。

表5 研究の対象となる社交倶楽部

	写真	概要
一般社団法人 大阪倶楽部		【新館】大正13年（1924） 会館竣工…〔旧館〕大正5年9月（1914） 倶楽部設立…大正元年11月（1912） 住所…大阪市中央区今橋4-4-11
近代的社交倶楽部 一般社団法人 中央電気倶楽部		（現）大正5年7月1日（1916） 会館竣工…〔旧〕大正3年10月30日（1914） 倶楽部設立…大正3年11月6日（1914） 住所…大阪市北区堂島中2-9
一般社団法人 日本綿業倶楽部		会館竣工…昭和6年12月（1931） 倶楽部設立…昭和3年12月24日（1928） 住所…大阪市中央区備後町2-5-18
近現代的社交倶楽部 一般社団法人 テキスタイル倶楽部		会館竣工…昭和35年（1960） 倶楽部設立…昭和23年3月8日 輸出繊維会館8F 住所…大阪府大阪市中央区備後町3-4-9
一般社団法人 大阪薬業クラブ		会館竣工…1962年（1997年改築） 倶楽部設立…1948年6月24日 住所…大阪市中央区伏見町2-4-6

〈参照：「建築と社会」「各倶楽部HP」、写真：筆者撮影〉

4-2. 近代的社交倶楽部

4-2-1. 大阪倶楽部

当時大阪市は人口120万人余の商工都市として拡大を続けていたものの、本格的な社交倶楽部はまだ存在していなかった。当時銀行家らが集う手形交換所に大阪銀行倶楽部が開設されたのが唯一であった。実業家たちは会合などを開く場合、料亭や茶屋を利用していた。そこで、一業一派に偏ることなく、財界の有識者らが集う紳士の社交場を設立することが望まれ、倶楽部設立関係者を英国に送り調査させた。

4-2-2. 中央電気倶楽部

明治25年4月東京に「日本電灯協会」が設立され、同協会は明治28年5月「日本電気協会」と改称。その後、関西を中心とする地方の会員から協会運営に地方の声を反映してほしいとの要望が強くなり、関西支部設置の動きが出た。明治43年春名古屋で開催された日本電気協会大会で、関西支部設置が決議され、名古屋以西、山口県までの会員により関西支部が発足した。関西支部設置のころから、各種会合のための会場を確保するのに苦勞していたこともあり、協会の独立と会員制社交倶楽部を設立。

4-2-3. 日本綿業倶楽部

（旧）東洋紡績株式会社専務取締役、岡常夫氏の生前からの遺志、「東京に工業倶楽部があるように、綿業の中心大阪に綿業関係者の倶楽部があつてよい。」を尊重し、妻である岡やす子が遺産中の金百万円を寄附したことにより実現した。「本倶楽部は綿業関係者の連携を強固にし、綿業の進歩発展を図るを以て目的とす」（昭和7年定款より）繊維業界における同業倶楽部として設立された。会議室は重大会議を開く場所を提供していた。

4-3. 近現代的社交倶楽部

4-3-1. テキスタイル倶楽部

連合軍の好意により対外貿易が再開され、外国貿易代表団も続々来朝して、日本商品が国際市場に旅立つに至ったことは、日本経済再建のため、同慶に堪えない。そこで、昭和23年2月、大阪地区所在の直接間接、関係を有する商社及び金融機関を対象に、親睦並びに事業の調査研究を目的とした社団法人テキスタイル倶楽部が設立された。

4-3-2. 大阪薬業クラブ

大阪府の区域内において、薬業、衛生材料業並びに医療機器業の進歩発展及び、その普及を図るとともに、会員相互の知識増進及び親睦を深め、地域の方々への健康増進及び公共の福祉に寄与することを目的とし結成された倶楽部である。設立当時は薬業関係者社長が昼食をとる場所として使用頻度が高く、有名洋食店がテナントに入っていた。

討議

討議 [倉方俊輔先生]

近代と近現代と現代3つに分けるのは一般的にそういう分け方があるのか？近代は終戦までで、現代はそれ以降か最近のことを言うかどっちかで、近現代は近代と現代を合わせた表現です。今回この言葉遣いをしたのはなぜか？

回答

倶楽部の変遷より終戦と昭和の末に転機があり、3つに時代を区分する必要があった。そこで、近代と現代の間にある時代として近現代を用語として当てはめた。

討議 [倉方俊輔先生]

近代型と近現代型は設立年で分けているのですか？それは近現代的倶楽部でなくて、近代の倶楽部では？近代的と言うと近代的要素が含まれているということで、設立年で分けているのであれば、「的」はいらない。

回答

設立年だけでなく、建築意匠や内部の室構成（倶楽室）に関して、近代・近現代の倶楽部に見られる特徴が見られるので、「的」という言葉を付けた。

討議 [倉方俊輔先生]

歴史の研究者がやる研究であり、単に建物だけしか見ていないから設立年の話になっている。ナレッジキャピタルなどを含めるのは良い問題設定であるが、結局やっていることはハードの話をしていて、倶楽部はソフトの繋がりではないのですか？その倶楽部のメンバーが活動するのは倶楽部の中に限らなくて、色んなアクティビティーがある中で、建物の中に集まることもあし、繋がることもある。呼び合るのが倶楽部で、そうでないとただの貸し会議室になる。そうすると段々倶楽部の面が貸し会議室になっているということが言えるとなるとそれはどうということなのか？また OBP やナレッジキャピタルはどうなるのか？ハードの面だけでなく、ハードの面とソフトの部分がさっき言った食堂がなくなっていく兆候だと読み取るならいいが、何年にできてこれは文化財で、価値があるという話では我々がやるつまらない研究、ソフト面には注目しないのですか？

回答

同業倶楽部に関してはその業界のシンボリック的存在として大きな会合を開く場所として提供されていて、集会所的な役割となっている。現代では業界に限らない開放で、その業界に限らない利用が見られ、テナントビルとなっている傾向にある倶楽部もある。一般社交倶楽部として取り上げた大阪倶楽部はテナントがなく、貸し会議室に関しては現代に入り、広く一般に開放されているが、街の中での位置づけは調べられていない。

討議 [吉田長裕先生]

現代の倶楽部の活動の中身を見たときに、昔の倶楽部的機能がほとんどその場所で行う必要性が無くなってきていると考えて良いのか、何が変わったから社交倶楽部として機能が失われてきたのか。例えば食堂に関してはおそらく周辺にお店がたくさんあるわけで、そういうのが変わってきたのか、建物だけを見ていても仕方がないので、時代の中で違いが現れているのであれば、その辺りを教えてほしい。

回答

どの倶楽部も問題としてあげていることは、会員数の減少であり、各倶楽部対策をとっている。会員数の減少による収入源の減少への対策として貸室事業に力を入れる傾向にある。食堂は各倶楽部運営会社を変更し時代を潜り抜けてきており、採算を考えると運営は厳しいように考えられる。また、倶楽部によっては採算がとれず、テナントとして飲食店を入れるケースもあり、テナントビルの一階を飲食店にするケースと同様のものになっている。また、現代に入り、制度改革で各倶楽部公益事業へ力を入れる傾向にある。

討議 [吉田長裕先生]

公益という言葉の中身をもう少し具体的に示してほしい。昔はそういったところでどんなことが行われていたのか？という話がありますか？その中身が変遷しているという話がありますか？外形的に公益になりましたということは分かるのですが、中身事態が時代と共に事の必要性がなくなったとか、逆に新しく生まれてきた必要性が倶楽部ではあるのか。

回答

公益事業に関しては、各倶楽部最近になってから行うものがほとんどで、無くなるというよりは新しく生まれている。例えば、一般公開見学会や公開講演会などを行う倶楽部がほとんどで、結婚式場とし

て提供する倶楽部もある。また、同業倶楽部は関連業界の教育機関への助成金も行っている。昔から行っている公益事業の例としては日本綿業倶楽部が繊維関係の大学へ助成金を送っていたこともあるが、大学側が支援を必要としなくなりなくなっている。その後、繊維の専門学校を作り、教育支援を行っていた事もある。

討議 [吉田長裕先生]

制度面から無理矢理そうしているということはあるのでは？本来は会員数が減少してきても、問題なければそのままでもいいけれども、そこに追い打ちをかけるように制度の変更があったから、建前上は一般公開していますよという形をとっているが、そこまで使われていない。結婚式場などはあるとは思いますが。

回答

建築的価値を倶楽部側も認識し、制度面とも兼ね合いや文化財への指定から一般に公開するようになっている。日本綿業倶楽部は文化財への指定に関して、喜んで受け入れており、またその他の活動（周辺のまちづくり事業）への協力依頼があれば、協力する姿勢である。